２０２１年　讃仰講演会「摂取不捨」という成仏道――願生と往生――

小　川　一　乗

①『尊号真像銘文』「常照我身」というは、（中略）摂取不捨の御めぐみのこころをあらわしたまうなり。「念仏衆生　摂取不捨」（『観経』、聖典１０５頁）のこころを釈したまえるなり。　（聖典５２５頁）

＊ 煩悩にまなこさえられて　摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて　つねにわが身をてらすなり
（『高僧和讃』「源信大師」、聖典４９７～４９８頁）

＊摂取不捨の心光　（『尊号真像銘文』、聖典５１２頁）

②『教行信証』摂取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮することなかれ。
（聖典１５０頁）

『文類聚鈔』摂取不捨の真理、超捷易往の教勅、聞思して遅慮することなかれ。
（聖典409頁）

『正像末和讃』　弥陀の本願信ずべし　本願信ずるひとはみな
摂取不捨の利益にて　無上覚をばさとるなり　（聖典５００頁）
（摂取不捨の利益ゆえ　等正覚にいたるなり）　（聖典５０２頁）

③『末燈鈔』真実信心の行人は、摂取不捨のゆえに、正定聚のくらいに住す。（中略）信心のさだまるとき、往生またさだまるなり。　（聖典 600頁）

＊『愚禿鈔』　真実浄信心　内因　――願生
摂取不捨　　外縁　――往生　（聖典４３０頁）

④『一念多念文意』 往生すとのたまへるは、正定聚のくらいにさだまるを不退転に住すとはのたまへるなり。このくらいにさだまりぬれば、かならず無上大涅槃にいたるべき身となるがゆへに、等正覚をなるともとき、阿毘抜致にいたるともときたまふ。即時入必定（易行品）ともまふすなり。　（阿惟越致にいたるとも）　（　聖典５３６頁）

【左訓】　正定聚――わうじやうすべきみとさだまるなり
かならずほとけになるべきみとなれるなり。
等正覚――まことのほとけになるべきみとなれるなり。
ほとけになるべきみとさだまれるなり。
しやうちやうしゆのくらいなり。
大涅槃・無上大涅槃――まことのほとけなり。
滅度――ねちはんのさとりをひらくなり。

⑤『論註』易行道は、謂くただ信仏因縁を以て浄土に生ぜんと願ず。仏願力に乗じて便ち彼の清浄の土に往生を得。仏力住持して即ち大乗正定の聚に入る。正定は即ちこれ阿毘跋致なり。　（聖典168頁）

⑥『教行信証』 煩悩成就の凡夫、生死罪濁の群萌、往相回向の心行を獲れば、即の時に大乗正定聚の数に入るなり。正定聚に住するがゆえに、必ず滅度に至る。（聖典280頁）

⑦『浄土三経往生文類』 念仏往生の願因によりて、必至滅度の願果をうるなり。現生に正定聚のくらいに住して、かならず真実報土にいたる。　（聖典468頁）